



公益社団法人

福岡県医師会

FUKUOKA PREFECTURE MEDICAL ASSOCIATION

サイト内検索

→ サイトマップ

→ お問い合わせ

トップ

県民の皆様

医師の皆様

アクセス

リンク

会員専用

感染症発生動向調査 週間コメント

【疾病別 推移グラフ】

244214

第45週 (H30.11.5~H30.11.11)

■今週のトピックス

▽ 今週(2018年第45週:11/5~11/11)はインフルエンザが増加し、キットでA+の報告が大部分です。RSウイルス感染症は減少しています。感染性胃腸炎が連続増加しノロウイルスの報告が増加してきています。風しんは全国情報で関東中心に多数報告があり、成人男性が多いとの情報です。県内からも報告が続きます。

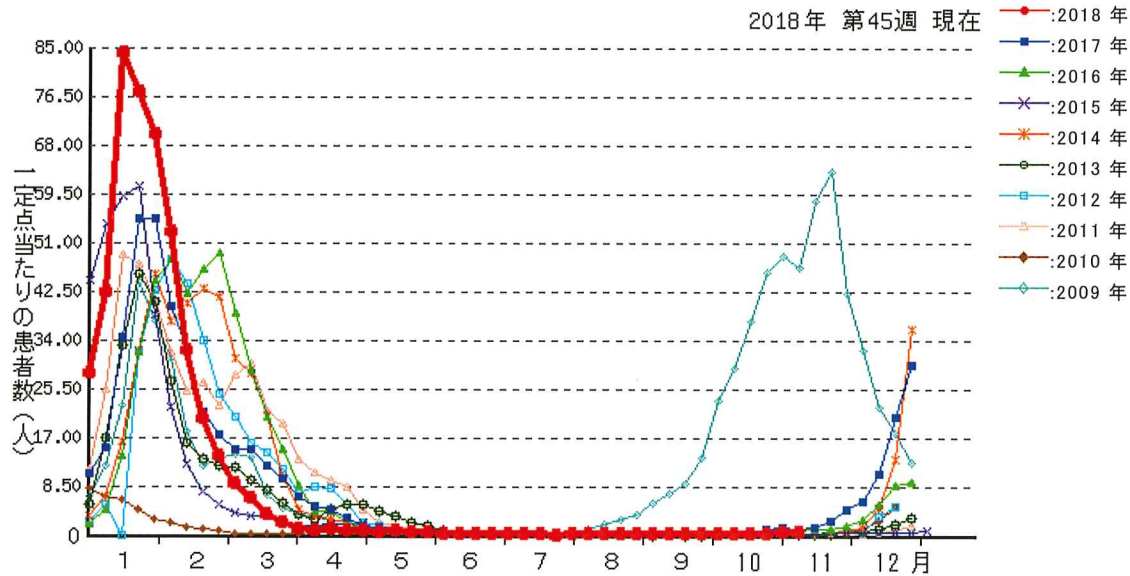
◎ 急性弛緩性麻痺がH30.5/1から全数報告となり、患者数が9月から増えはじめ第43週で計98人。

病 名	報告数	前週比	主な増加地区等	1定点当たりの患者数	
				福岡県	全国
インフルエンザ	95	158%	筑後46、福岡39	0.48	0.21
RSウイルス感染症	53	65%	福岡35、筑後9	0.44	0.62
咽頭結膜熱	129	132%	福岡60、筑後50	1.08	0.35
A群溶連菌咽頭炎	463	120%	福岡339、北九州57	3.86	1.9
感染性胃腸炎	1675	143%	福岡846、北九州527	13.96	4.14
水 痘	50	119%	福岡30、北九州11	0.42	0.32
手足口病	82	114%	福岡59、北九州17	0.68	0.77
伝染性紅斑	38	+20	福岡26、筑後8	0.32	0.44
突発性発しん	76	103%	福岡36、筑後22	0.63	0.37
百日咳	1	-3	北九州1	0.01	
風しん	0	±0		0.00	
ヘルパンギーナ	26	+2	筑後8、福岡7	0.22	0.25
麻しん	0	±0		0.00	
流行性耳下腺炎	28	-7	北九州23、福岡5	0.23	0.11
川崎病(MCLS)	5	-4	筑後3、北九州1	0.04	
マイコプラズマ肺炎	17	+6	筑後8、福岡6	0.14	0.31
クラミジア肺炎	0	±0		0.00	0.01
細菌性髄膜炎	0	±0		0.00	0.03
無菌性髄膜炎	0	±0		0.00	0.02
急性脳炎	0	±0		0.00	
急性出血性結膜炎	0	±0		0.00	0.01
流行性角結膜炎	25	-4	北九州13、福岡7	0.96	0.8
性器クラミジア感染症	35	+18	福岡19、北九州8	0.95	
性器ヘルペス	4	±0	福岡4	0.11	
尖圭コンジローマ	4	+3	福岡2、筑後1	0.11	
淋菌感染症	14	+8	福岡6、筑後4	0.38	
梅 毒	0	-3		0.00	

全国情報は平成30年44週分です。全国情報ではマイコプラズマ肺炎147、クラミジア肺炎3例。

平成30年第44週までの累計は、急性灰白髄炎0、結核18217(県内778)、コレラ3、細菌性赤痢211(県内1)、腸管出血性大腸菌感染症3603(今週63、県内今週2、計157)、腸チフス33(県内2)、パラチフス19、E型肝炎382、A型肝炎850(今週16、県内14)、オウム病6、ジカウイルス感染症0、SFTS74(県内1)、チクングニア熱3、つつが虫病128、デング熱165(県内0)、日本紅斑熱279、日本脳炎0(県内0)、マラリア45(県内1)、レジオネラ症1879、アメーバ赤痢713、ウイルス性肝炎208(県内6)、急性脳炎550(県内31)、クロイツフェルト・ヤコブ病180、劇症型溶レン菌感染症581(県内17)、後天性免疫不全症候群1076(県内62)、侵襲性インフルエンザ菌感染症406(県内13)、侵襲性髄膜炎菌感染症29、侵襲性肺炎球菌感染症2670(県内125)、水痘(入院)362(県内23)、先天性風しん症候群0、梅毒5811(県内256)、風しん1884(今週154、県内55)、麻しん245(今週2、県内20)例。1類感染症の報告はない。

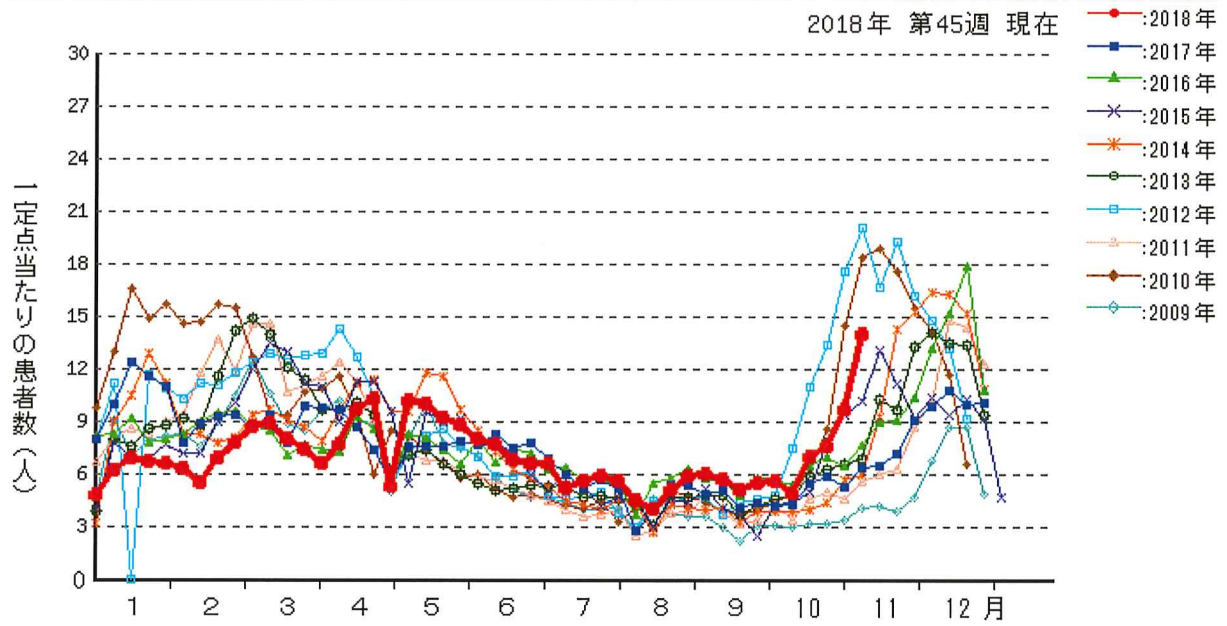
■インフルエンザ（福岡県全域）



福岡県におけるインフルエンザ定点当たり報告数

	2012 年	2013 年	2014 年	2015 年	2016 年	2017 年	2018 年
第35週	0.04	0.04	0.00	0.01	0.00	0.12	0.02
第36週	0.05	0.00	0.00	0.04	0.11	0.08	0.11
第37週	0.08	0.01	0.02	0.14	0.16	0.13	0.06
第38週	0.06	0.00	0.04	0.03	0.31	0.13	0.10
第39週	0.02	0.00	0.05	0.04	0.37	0.11	0.16
第40週	0.05	0.02	0.13	0.01	0.33	0.21	0.11
第41週	0.04	0.02	0.10	0.05	0.30	0.12	0.16
第42週	0.02	0.01	0.05	0.08	0.44	0.48	0.07
第43週	0.06	0.01	0.05	0.20	0.44	0.91	0.26
第44週	0.02	0.13	0.07	0.20	0.57	1.29	0.30
第45週	0.16	0.02	0.09	0.15	0.84	1.06	0.48
第46週	0.12	0.03	0.19	0.16	1.10	1.33	
第47週	0.12	0.04	0.49	0.30	0.99	3.32	
第48週	0.28	0.29	0.60	0.36	1.63	4.33	
第49週	0.52	0.68	1.23	0.33	2.68	5.79	
第50週	1.28	0.92	4.71	0.39	5.39	10.57	
第51週	3.32	1.82	13.17	0.32	8.72	20.42	
第52週	4.99	2.88	36.16	0.48	9.24	27.17	
第53週	—	—	—	0.82	—	—	

■感染性胃腸炎（福岡県全域）

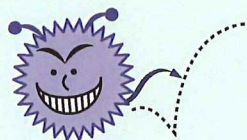


こうやって防ぼう! ノロウイルス

ノロウイルスとは

● 特徴

感染性胃腸炎の原因となるウイルスで、特に冬季に多発します。食中毒の原因として知られていますが、感染者の吐ぶつやふん便には大量のノロウイルスが含まれており、吐ぶつなどを介して感染が広がることがあります。



● 感染経路

- 経路 1) ノロウイルスに汚染された二枚貝等を生あるいは十分に加熱調理しないで食べる。
- 経路 2) ノロウイルスに感染した人が、十分に手洗いを行わないで調理をすると、食品が汚染され、その食品を食べた人が感染する。
- 経路 3) ノロウイルスを含むふん便や吐ぶつを処理した際、手についたウイルスや、不適切な処理で残ったウイルスが、口から取り込まれて感染する。

● 感染した場合の症状

ノロウイルスに感染してから24～48時間後に、嘔吐、下痢、腹痛、発熱等の症状がでます。通常 3 日程度で快復しますが、症状がなくなっても、通常は1週間程度、長いときには1ヶ月程度、ウイルスはふん便中に排出されます。



● 消毒方法

- 方法 1) 85℃以上で1分以上の加熱
- 方法 2) 次亜塩素酸ナトリウム（塩素系漂白剤）による消毒
ノロウイルスには逆性石けん、アルコールはほとんど効果がない
★ 次亜塩素酸ナトリウムを使用する際は換気を十分行うこと

次亜塩素酸ナトリウム液の作り方

0.02% (200ppm)
次亜塩素酸ナトリウムの作り方

原液の濃度が6%の場合、300倍に希釈する
(水3ℓに原液10mlを入れる)

0.1% (1000ppm)
次亜塩素酸ナトリウムの作り方

原液の濃度が6%の場合、60倍に希釈する
(水3ℓに原液50mlを入れる)

手洗いの方法

手洗いは感染防止の基本です。ノロウイルスは感染力が強く、ウイルスに触れた人の手を介して感染が拡大することが多いので、正しい手洗いの実施がノロウイルス感染予防の第一歩となります。

効果的な手洗いを実施するタイミングは、

①外出から帰宅したとき、②トイレ使用后、③吐ぶつやふん便の処理後、④調理や食事の前です。

● 洗い残しのない正しい手洗いの手順

①時計や指輪をはずします



②水で手を濡らします



③手洗い石けんをつけます



④手のひらをよくこすります



⑤手の甲、指の間をこすります



⑥親指を念入りに洗います



⑦指先をこすります



⑧爪ブラシで指先を洗います



⑨手首を洗います



⑩水で十分洗います



⑪ペーパータオルで拭きます



⑫蛇口栓にペーパータオルをかぶせて栓を締めます



吐ぶつの処理方法

吐ぶつ、ふん便(おむつを含む)を処理する際は、その汚物が感染性のものであるという前提で処理を行いましょう。汚物を処理した人がノロウイルスに感染しないよう事前に準備をしっかり行いましょう。

● 汚物(吐ぶつ、ふん便)の処理を行う前の注意事項

- ・ 汚物の処理を行う人は**使い捨て手袋**、**マスク**、**エプロン**を着用しましょう。
- ・ 汚物処理に必要な**ペーパータオル**、**ビニール袋**、**次亜塩素酸ナトリウム**などを事前に用意しましょう。
- ・ 汚染場所には**関係者以外近づかない**ようにしましょう。
- ・ 汚染場所を次亜塩素酸ナトリウムで消毒した場合、消毒した場所が漂白されることがあります。

● 汚物(吐ぶつ、ふん便)の正しい処理手順

- ① 使い捨てのペーパータオルなどで汚物の外側から内側に向かって静かに拭き取る



- ② 使用したペーパータオルはすぐにビニール袋にいれ、0.1%次亜塩素酸ナトリウムをペーパータオルに染みこむ程度に入れる



- ③ ビニール袋はしっかり口を締めて廃棄する



- ④ 汚物が付着していた床やその周囲は0.1%次亜塩素酸ナトリウムを染みこませたペーパータオルで覆うか、浸すように拭く



- ⑤ 手袋は使用したペーパータオル等と同じようにビニール袋に入れて処分する。処理後はしっかり手洗いを行い、汚染場所の換気を十分に行う



食中毒を防ぐには

● 予防法1 食材は十分に加熱する

二枚貝等の食材は中心部が85℃～90℃で90秒以上加熱しましょう。

● 予防法2 調理器具は洗浄消毒する

二枚貝の調理に使用したまな板等の調理器具は十分に洗浄し、熱湯（85℃以上）に1分以上浸漬するか、0.02%次亜塩素酸ナトリウムで消毒しましょう。



● 予防法3 調理従事者の衛生管理を徹底する

- * 食品の盛り付け作業時には使い捨て手袋を使用しましょう。
- * 嘔吐、下痢等の症状がある調理従事者は、食品を直接取り扱う作業には従事しないようにしましょう。
- * 手洗いを十分行いましょう。（2ページの手洗い方法を参考にウイルスを洗い流す）

施設・リネン類の消毒方法

● 施設の消毒

ドアノブ、手すり、水道の蛇口などは0.02%次亜塩素酸ナトリウムに浸した布で拭く等、定期的に消毒を行いましょう。

ただし、次亜塩素酸ナトリウムは金属腐食性があるので、消毒後の薬剤の拭き取りを十分行うようにしてください。

● リネン類の消毒

感染者の吐つやふん便がついたシーツ等のリネン類を取り扱うときは、使い捨て手袋、マスク、エプロンを着用し、リネン類はビニール袋に入れて周囲を汚染ないようにしましょう。

洗剤を入れた水の中で静かにもみ洗いして汚れを落とした後、0.02%次亜塩素酸ナトリウムに10分間浸すか、85℃以上で1分以上、熱湯消毒してください。次亜塩素酸ナトリウムには漂白作用があります。色物の取り扱いにはご注意ください。

消毒後は他のものと分けて最後に洗濯しましょう。

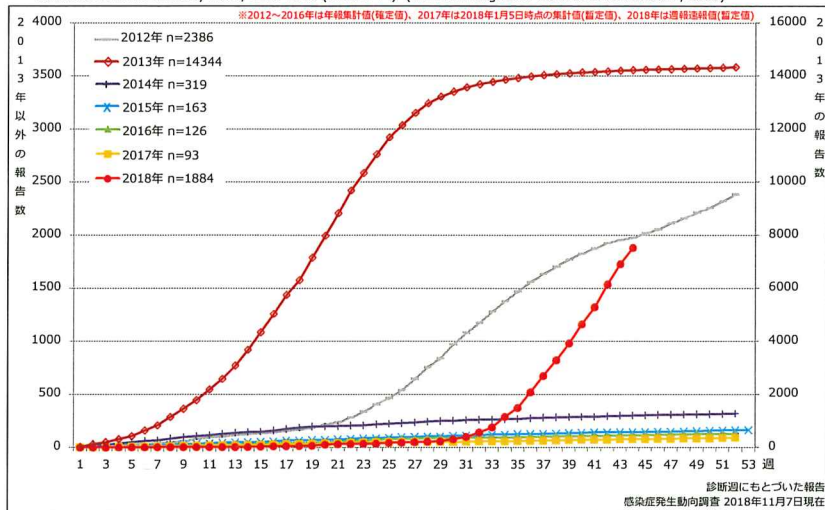


問い合わせ先

● 東区保健福祉センター 東区箱崎2-54-27	健康課 645-1078	衛生課 645-1111
● 博多区保健福祉センター 博多区博多駅前2-19-24	健康課 419-1091	衛生課 419-1126
● 中央区保健福祉センター 中央区舞鶴2-5-1	健康課 761-7340	衛生課 761-7356
● 南区保健福祉センター 南区塩原3-25-3	健康課 559-5116	衛生課 559-5162
● 城南区保健福祉センター 城南区鳥飼5-2-25	健康課 831-4261	衛生課 831-4219
● 早良区保健福祉センター 早良区百道1-18-18	健康課 851-6012	衛生課 851-6609
● 西区保健福祉センター 西区内浜1-4-7	健康課 895-7073	衛生課 895-7095
● 保健福祉局保健予防課 711-4270 中央区天神1-8-1	● 保健福祉局食品安全推進課 711-4277 中央区天神1-8-1	

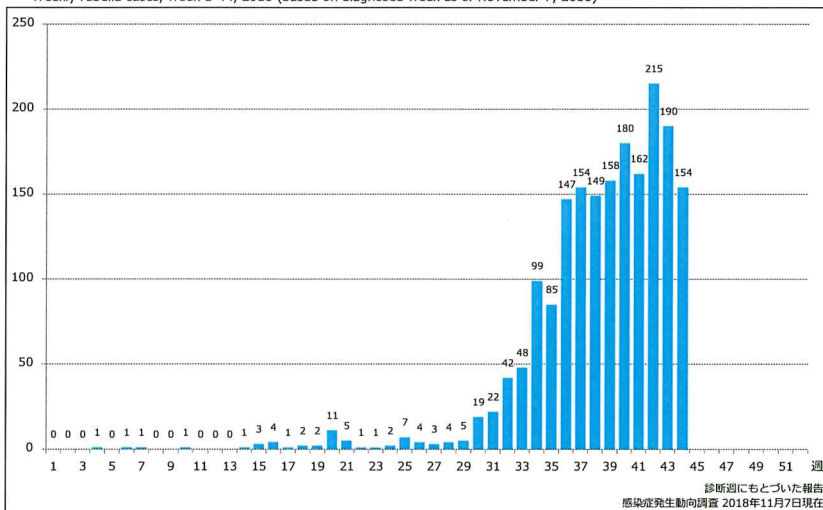
1. 風しん累積報告数の推移 2012～2018年（第1～44週）

Cumulative rubella cases by week, 2012-2018 (week 1-44) (based on diagnosed week as of November 7, 2018)



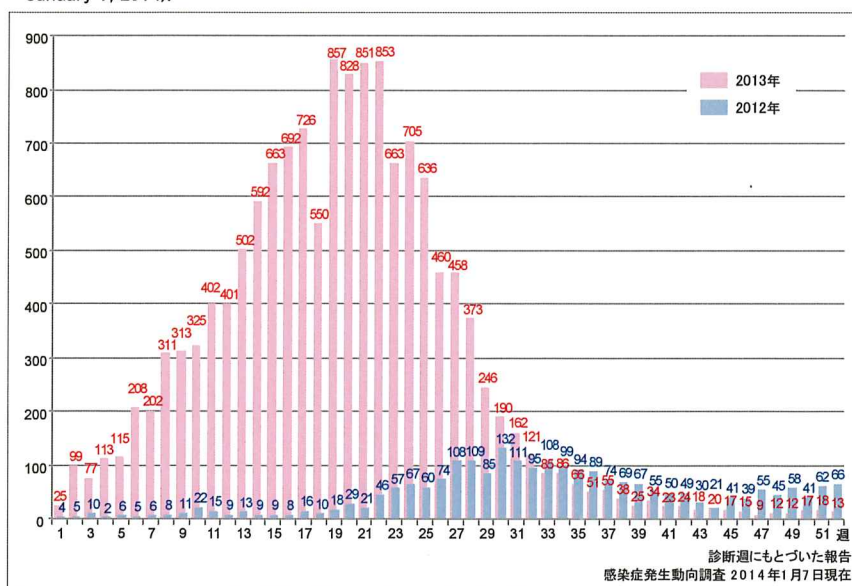
2. 週別風しん報告数 2018年 第1～44週（n=1884）

Weekly rubella cases, week 1-44, 2018 (based on diagnosed week as of November 7, 2018)



2. 週別風しん報告数 2013年 第1～52週（n=14,357）

Weekly rubella cases from week 1 to week 52, 2013 (based on diagnosed week as of January 7, 2014).



風しん・先天性風しん症候群の発生状況（感染症発生動向調査）

	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017※ ¹	2018※ ²
全国 風しん	378	2,386	14,344	319	163	126	93	2,032
全国 先天性風疹症候群	1	4	32	9	0	0	0	0
福岡県 風しん	86	39	304	4	9	3	1※ ³	70
福岡市 風しん	62	16	189	2	2	1	0※ ³	41

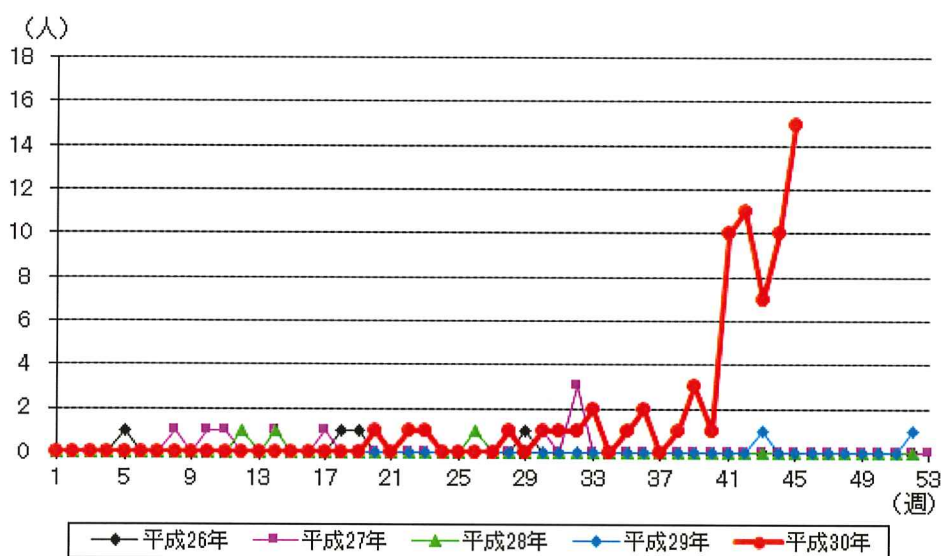
※1 2018年1月5日時点の全国集計値(暫定値)

※2 2018年第45週(11月5日～11月11日)までの報告数

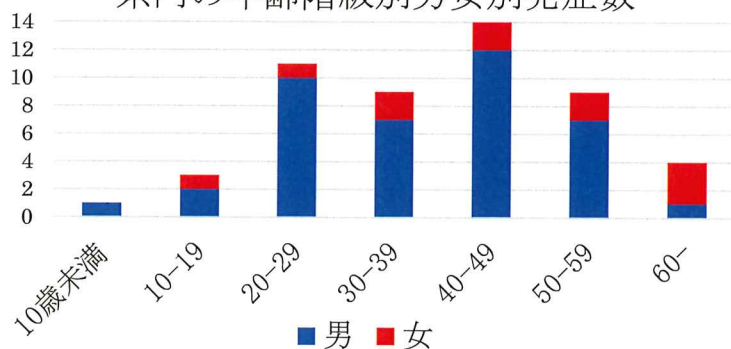
※3 2018年10月29日時点の県年報集計値(暫定値)

(※1～3ともに暫定値として公表するものであり、後日修正される場合があります。)

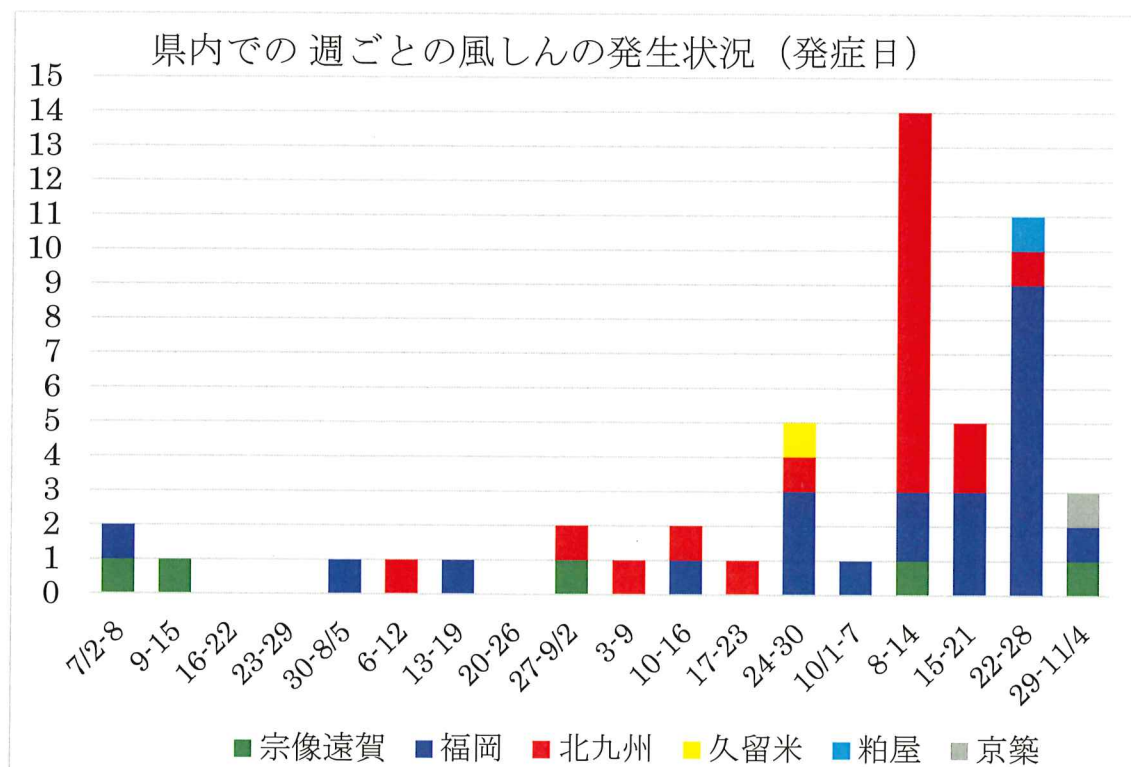
▶ 風しんの流行状況（福岡県）



県内の年齢階級別男女別発症数



※本会に提供のあった情報を基に作成



※本会に提供のあった情報を基に作成

予防接種の推奨

1. 定期予防接種(1歳、就学前1年)
2. 妊婦健診の風しん抗体検査で抗体価が低い女性(HI:16x以下)は出産後速やかに接種
3. 妊娠を希望する女性で風しん抗体価が低い場合、妊娠していないこと、および2か月間は避妊をすることを前提に接種
4. 風しん抗体価が低いことが判明した妊婦のパートナー、同居家族で抗体価が低い場合は直ちに接種

ただし、風しん含有ワクチンは2回接種すればよく、2回接種の記録が確認できれば、追加の接種は不要で抗体検査を実施する必要ないとされている

鳥インフルエンザの流行状況とプレパンデミックワクチンの変更

鳥インフルエンザ A(H5N1) の状況

○2003年に中国でヒトでの感染が確認されて以降、現在に至るまで、東南アジアを中心に、中東・ヨーロッパ・アフリカの一部地域などで感染が確認されている。

○2017年9月27日時点で患者数860名、死亡者は454名死亡が報告されている。

○ほぼ全ての症例が、家きん等との濃厚な接触により感染している。

○2016年の発生は10例、2017年の発生は4例にとどまっている（2017年9月27日）

鳥インフルエンザ A(H7N9) の状況

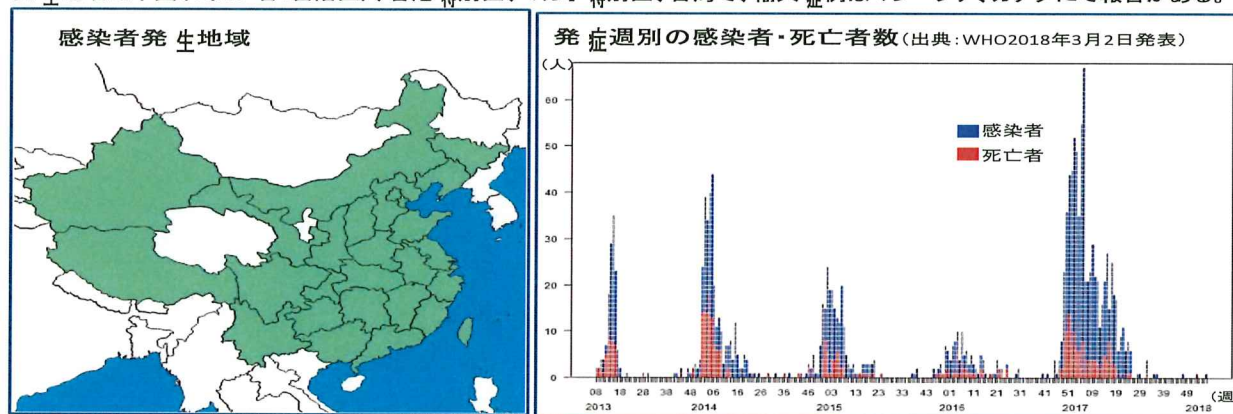
○2013年3月31日に中国政府が3名の感染を公表。2018年3月2日時点で患者数1,567名、死亡者は少なくとも615名が報告されている。

○日本と中国との間ではヒトの往来も頻繁であり、H5N1と比べ、国内で患者が発見される可能性は同程度以上。

○現時点で持続的なヒト-ヒト感染は確認されていないが、複数の動物実験などから本ウイルスがほ乳類への適応性を高めていることが示されている。限定的なヒト-ヒト感染が起こっていると考えられていることから、国内に入国した感染者から家族内などで二次感染が起こり得ることを引き続き考慮する必要がある。

鳥インフルエンザA(H7N9)の発生状況(2013年3月以降)

2018年3月2日WHO発表によると、2013年3月以降、ヒト感染患者は1567名(うち、少なくとも615名死亡)。
発生地域は中国(4市19省4自治区)、香港特別区、マカオ特別区、台湾で、輸入症例はマレーシア、カナダにて報告がある。



感染者数: 中国(香港及びマカオを含む)1559名、台湾5名、マレーシア1名(輸入症例)、カナダ2名(輸入症例)

厚生労働省健康局結核感染症課 H30.3.20作成

第12回新型インフルエンザ対策に関する小委員会(2018年5月23日)

1: プレパンデミックワクチンの当面の備蓄方針について

○特定接種対象者に対し迅速に接種を行うためには、プレパンデミックワクチンの備蓄は当面必要ではないか。

○この際、1,000万人分備蓄するプレパンデミックワクチンとして、近年の鳥インフルエンザ発生状況等から、検討時点において「危機管理上の重要性」が高いH7N9株(A/Guangdong/17SF003/2016(IDCDC-RG56N))としてはどうか。